

笑顔のひろば

笑顔のひろば「第9号」

平成21年6月1日

発行

川崎協同病院広報委員会

川崎市川崎区桜本 2-1-5

TEL:044-299-4781(代)

FAX:044-299-4788

研修医一年目の松浦と申します。私は昭和大学を卒業し、その後五年のプランクを経てこちらに就職しました。5年間は自分のバンドを組んで活動したり、医学生向けの参考書制作の仕事をしたりと、私の今の人格形成にとっても重要な時間を過ごしました。



研修医
松浦 省己

アウトローとして見られがちな私ですが、ここでは私の個性を潰さず、むしろ引き延ばしてくれます。先生方は皆やさしくそして熱く、時には私の悩みに耳を傾けてくれます。日々の仕事にはまだまだ慣れず、勉強不足が目立ちますが、一歩でも先生方のような医師として成長できるようになりたいと思っています。

今年度リハビリテーション科に入職しました、作業療法士の本田です。



作業療法士
本田 裕梨

川崎協同病院は、実習に行った友人から研修や勉強会がとても充実していると聞き、学校の先生から紹介していただきました。実際、新入職員研修はとても充実しており、事業所探検など貴重な体験をさせていただきました。

私は本を読むことが好きなインドア派の22歳です。江國香織さんや唯川恵さんの著書(中でも恋愛小説)が特にお気に入りです。おすすめの本がありましたら、ぜひ教えてください。

まだ社会人1年目、不安もありますが少しでも早くお役に立てるよう、知識・技術・マナーを一生懸命学んでいきたいと思っています。よろしくお願いします。

初めまして。今年の4月より皮膚科医として勤務している中村和子と申します。はじめは知り合いもおらず緊張していましたが、やっと少しずつ慣れてきました。



皮膚科医
中村 和子

今まで立川の災害医療センターや横浜市大付属病院、市民総合医療センターなどで勤務してきました。

アレルギー疾患や水疱症などに興味がありますが、小手術も好きです。皮膚のことであれば、細かいことでも色々ご相談いただければと思います。

皮膚科は私と非常勤の川久保先生と二人で協同ふじさきクリニックの外来を交互に担当し、月曜日から金曜日まで毎日外来を行っていますので、併診も大歓迎です。よろしくお願いします！

新 人 職 員 紹 介

NEW

FACE

地域医療連携室の医療相談員として入職した田中文字です。出身は千葉県で、家の周りに田んぼや畑がたくさんある田舎で生まれ育ったので、川崎の人の多さと賑やかさに今は新鮮さを感じています。



ソーシャルワーカー
田中 文字

趣味は旅行で、スキューバダイビングをしに海の綺麗な場所に行ったり、世界遺産めぐりをしたりしています。そして旅行先では必ずおいしいご当地グルメを堪能して帰ってきます。

医療相談員として働いていく中で、理想と現実とのギャップに戸惑ったりと様々な問題に直面することがあると思いますが、逃げることなく最後まで諦めない姿勢を大切に勤務していきたいと思っています。そして、笑顔と感謝の気持ちを忘れずに頑張りたいと思いますのでよろしくお願いします。

今年、検査科に入職しました臨床検査技師の西村麻裕子です。

地元の長崎の言葉なら流暢に話せるのに、標準語になると途端に滑舌が悪くなるのが悩みの種です。

川崎を色々探索して、街をよく知り地域にはよく溶け込んでいきたいです。ただ、自転車では直進するのがやっとなので(お恥ずかしい...)、ウォーキングで近所の川崎大師周辺を探索しようと考えています。

検査技師・医療生協の一員として、川崎区民としてスタートを切ったばかりですが、日々努力していきたいと思っています(自転車も)。宜しくお願いします。



臨床検査技師
西村 麻裕子

今年、看護部に入職した看護師の坂川です。三年間奨学生としてお世話になってきたこの病院で、夢だった看護師として働けるのでとても嬉しいです。趣味は映画鑑賞。川崎は大きな映画館があるので、たくさん映画を観たいなと思っています。

横浜生まれの横浜育ち。性格はのんびり・マイペースでちょっと天然!?だと言われますが、「やる時はやる!」がモットーです。

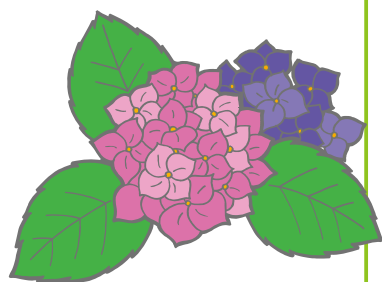
初めての一人暮らしに、初めての職場、不安はありますが、患者さまにいつでも明るい笑顔を届けられるように一生懸命頑張ります。よろしくお願いします。



看護師
坂川 美保

緩和ケアチームの取組

患者さまに寄り添うご家族などの心の痛みも理解することが務め



緩和ケアチーム



こんにちは、緩和ケア認定看護師の石原です。昨年の十月から緩和ケアチームを立ち上げ、活動しています。緩和ケアチームとは「がんなどの生命を脅かす病気をもち患者・家族（介護者を含む）のQOLの維持向上を目的に、主治医や担当看護師などと協働しながら、早期から身体症状や精神症状などの緩和ケアに関する専門的な知識や技能を提供していきます。地域連携による切れ目のないケアの提供や、医療従事者などへの教育、院内および川崎医療生協法人内、地域での緩和ケアの普及などを行う他職種から構成されるチーム」です。

先日「慢性腎不全で全盲の患者さまが全身の痛みとしびれがひどく、特に夜間になるとナースコールが頻回になりどうしたらよいものか」と、緩和ケアチームにコンサルテーション依頼が来しました。全身の痛みは、筋力低下、糖尿病による末梢神経障害と考えられました。それに加えて透析を導入したばかりということもあり、いろいろな不安を抱えておられる、ということが分かりました。そこで、ピタミン剤と軽い睡眠薬の投与の提案をしました。それと並行

して、受け持ち看護師には散歩や足浴などを通してじっくり患者さまの抱えている不安を聴く機会を積極的に設け、気分転換やリラクゼーションを提案しました。受け持ち看護師を中心に病棟のスタッフが積極的にケアに取り組むだけでなく「アロマ効果を期待して、足浴するときに入浴剤を入れてはどうか。」など工夫され、ケアされていきました。そして、夜間は良眠が得られるようになり、必然的にナースコールの回数も減ったそうです。

このように、つらい症状に苦しむ方の苦痛や苦悩を少しでも緩和できるようお手伝いをさせていただくのが私たちの役割です。苦しんでいる患者さまに寄り添うご家族やスタッフも多くのストレスを抱えています。そのようなご家族やスタッフの心の痛みを緩和することもまた、私たちの役割と考えています。また、緩和ケアは一人ではできません。チームで力を合わせ、互いに癒しあいながら活動していきます。お気軽にご相談ください。

緩和ケア認定看護師
石原 奈美

倫理公開学習会を終えて

「あなたは死とどう向き合いますか」

二月二〇日に川崎協同病院倫理委員会の主催で公開学習会をパネルディスカッション形式で開催しました。倫理委員会の活動としては四年前の二月に「いのちとどう向き合うか」のテーマでシンポジウムを開催して以来であり、地域や倫理委員会のなかでも「やりたいね」という声が出ていましたが、なかなか実践には至りませんでした。金曜日の夕方ということもあり、どれだけの人がきてくれるのかの心配もしながらでしたが、当日は一〇〇名近い方にご参加いただきました。このことは、地域の組合員さんの宣伝のおかげです。本当に感謝しております。あわせて横浜市内の医療機関や川崎の福祉施設の方にもご参加いただきました。

パネルディスカッションに入る前に倫理委員長佐々木医師よりこの四年間の倫理委員会の到達点と今後の課題、病院で起こっている倫理上の課題など具体的内容の報告がありました。改めて終末期医療の指針に立ち返る機会となりました。

ディスカッションのパネラーは、在宅介護を経験し母親を看取った御家族、地域で在宅介護を支える訪問看護士、看護師の所長、病院で死と向き合うことが避けられない医師、そして住職の四人の方々でした。それぞれの経験を通しての想いを語っていただきました。皆さん立場の違いはありますが患者や家族などの死を目前にしながらそこから逃げるこ

となく向き合っている姿勢に感動しました。パネラーの発言が終了してからも会場から活発な意見や感想が出されました。その中からいくつかご紹介したいと思います。「死に直面してないと考えられないが、自分の生き方とも繋がっていると思った、今日は家で話したい」「自分がどう死ぬかはどう生きるかにつながっている。大勢の人に助けてもらって生きている」「医療機関の多い地域にいるが川崎協同病院の医療水準に信頼を寄せている」「主人の介護を二五年続けてきた、自分の意思を伝えられない状態だがどんな形でもいいから生き続けてほしい」「この他にも今の自分と重ね合わせた感想や意見がいくつも出されました。」

最後に、司会者より「死というものをいろんな形（家族や仲間・・・）で話し合うことが大事である。その人の立場になってどうだろうと考えることが思いやりの基本である。そういう意味で本日の会は意義深いものになった」との締め言葉で終了しました。

当院の倫理委員会としては今回の学習会が大変好評だったので今後もこのような企画を開催したいと考えております。そのときには皆様ぜひご参加下さい。

川崎協同病院倫理委員 副看護部長
鈴木久美子

こんな症状
ありませんか

睡眠時無呼吸症候群

昨年より当院では次のような二種類の検査が可能になりました。

簡易型検査…外来で機械の貸し出しを予約します。ご自分で就寝前に機械を装着し、自宅で検査します。機械返却後、データを解析し後日結果を説明します。無呼吸低呼吸指数、血中酸素飽和度、いびきの頻度が測定できます。

一泊入院検査…地域医療連携室に連絡をとるか、もしくは耳鼻咽喉科外来に受診し入院日を決めてください。

一泊入院検査…地域医療連携室に連絡をとるか、もしくは耳鼻咽喉科外来に受診し入院日を決めてください。入院に必要なものはこちらで用意いたしますので、当日の夕方仕事帰りにそのままいらしてください。食事と入浴をすませた後、検査機器を装着し個室でお休みいただき、翌日朝食をとって退院となります。結果は後日外来にて説明いたします。一泊入院検査では簡易検査の項目に加え脳波、心電図、呼吸に伴う胸や腹の動き、眼球の動きなどを測定することで睡眠の深さや覚醒反応の有無、睡眠構築、睡眠効率などを呼吸状態の詳細と合わせて定量的に算出します。



隣で眠っている方（ご主人、奥様、ご友人）のいびきがうるさくて困る、またいびきが止んだかと思ったら息が止まっていてびっくりしたとおっしゃる方はいませんか？このような方は睡眠時無呼吸症候群（sleep apnea syndrome: SAS）の恐れがあります。

睡眠時無呼吸症候群は一〇秒以上の無呼吸がひと晩（七時間）に三〇回以上おこる場合、または睡眠一時間当たりの無呼吸数が五回以上おこる場合、と定義されています。無呼吸がおこる原因によって「閉塞型」、「中枢型」、「混合型」の三つのタイプに分類されています。中でも圧倒的に多いタイプが「閉塞型」です。閉塞型睡眠時無呼吸の原因は肥満に伴う上気道軟部組織への脂肪沈着、扁桃肥大、巨舌症、鼻中隔彎曲症、アデノイド増殖症、小顎症などにより気道が狭い上に、睡眠中に咽頭の筋肉や舌が弛緩しさらに気道が狭くなっておこります。その際大きないびきを伴います。このような方は入眠、無呼吸、中途覚醒、呼吸再開、再睡眠を一晚のうち何回も繰り返すため深い睡眠が得られません。そのため熟睡感がなく、昼間の強い眠気、倦怠感、頭痛などの症状が現れます。

当院では検査結果により、睡眠時無呼吸の患者さまには経鼻的持続陽圧呼吸（CPAP）療法の導入をお



耳鼻咽喉科 科長
水野 浩美

睡眠時無呼吸症候群検査のお問合せ先

川崎協同病院耳鼻咽喉科外来もしくは地域医療連携室へご連絡下さい。

044-299-4781 (代表)

044-266-2119 (地域医療連携室直通)

耳鼻咽喉科 診療体制	時間・受付体制	月	火	水	木	金	土
	午前	○	予約検査 特殊検査	○	○	○	○
午後		予約検査 特殊検査	○ 手術	○	休診	○	—

四月より耳鼻咽喉科で勤務しています。



耳鼻咽喉科医
波多野 孝

こんにちは。四月より耳鼻咽喉科で勤務しています。波多野孝といいます。

二〇〇六年に横浜市大を卒業し、横浜南共済病院で二年間の初期研修を終了後、横浜市大耳鼻咽喉科に入局、昨年は横浜市大付属市民総合医療センターに勤務していました。

出身は神奈川県藤沢市で、趣味という程ではありませんが、中高大と一二年間バスケットボールをしていました。最近はやっとあまり運動をしてませんが、もしバスケットをするようなことがありましたら一声かけてください。

川崎協同病院では主に毎日外来をしていますが、毎週水曜日には手術をしています。耳鼻咽喉科は昨年まで水野先生が常勤一人で勤務されていたところを今年から二人体制になりましたので、なにかありましたら気兼ねせずにご相談ください。

まだまだ病院のことなどもわからないことが多いですが、少しずつ慣れていこうと思っていますので、よろしくお願いします。

第32回お花見会を行って

南2階病棟看護師長
地曳 真由美

NEWS

今年も恒例になりましたお花見会が、協同虹の和・川崎協同病院・協同ふじさきクリニックの共催で、入院患者さまや在宅患者さまを対象に、病院近所にある大島第三公園にて行われました。

例年よりも開花予想が早まったため、葉桜でのお花見となるのではと懸念されましたが、患者さまの思いが通じたのか数日前からの気温の変化で、桜も満開に近い見事な状態でお花見を迎えることができました。

入院中の車椅子の患者さまがほとんどで73名、各病棟スタッフや新入職員、看護学生・高校生に付き添われ集合しました。その他、在宅患者さまや公園を通りすがりの方も参加され、虹の和ボランティアさんも含めて約180人で公園が埋め尽くされました。

司会は川崎医療生協非常勤常務理事の洞口さんと西5階病棟看護師記虎さんと虹の和の梅木さんの開会挨拶、副院長の関川先生の挨拶、新入職員の自己紹介とギターを使った歌（「上を向いて歩こう」「夢の中へ」「花」）に患者さまも参加し、大変盛り上がりました。南2階病棟（回復期リハビリ病棟）スタッフの嚥下体操も患者さまと一緒にしました。



パン食い競争では、車椅子を介助されながらパンを手にした患者さまも最高の笑顔をされていました。着物姿での組合員さんの踊り、サポートセンターの花笠音頭も華やかでした。

そして、入院中の患者さまの飛び込み参加があり、新人職員へ激励のあいさつと得賞歌（通称表彰状の歌）を熱唱され、新人職員も八木看護部長も心打たれ感激いっぱいの様子でした。

会の締めくくりには、患者さまも車椅子で「炭坑節」の和踊りに参加され会の最高潮を迎えました。

司会の記虎さんからお礼の挨拶の中に「天気に照らされた皆さんの笑顔を見て、桜がキラキラ輝いているかのように思えます」正に、その情景そのものでした。

また来年も、「桜が見たい」という気持ちを大切にお花見会を継続していきたいです。



看護学生担当
松澤 未和

今年の春も、川崎医療生活協同組合の各院所に「一日看護体験」に参加する大勢の看護医療系を目指す高校生達が集まりました！看護師の仕事に近く見て・聞いて・体験できるこの企画は、今回で四九回目の開催となります。春休みの短い期間ではありますが、今年は神奈川県内の高校生六八名が病院・診療所で憧れの看護師体験を行いました。

体験者からは「病院にこんなにたくさん職種の人が働いているなんて知らなかった」「自分も家に帰ったらおじいちゃんおばあちゃんともっと話そう」「祖父の介護を少しでも手伝おう」「学校ではわからなかった看護学校や仕事の事が実際に聞けた！」「看護師さんはとても忙しそうだったけど、笑顔を絶やさず患者さんに対応できてすごいと思った」「初めての足浴は緊張したけど、患者さんからありがとうと言ってもらえて嬉しかった」などの感想が出されました。朝早くから病院探検、看護学校・看護師の話、看護技術演習、病棟体験と内容のぎっしり詰まった一日の中で、参加した学生一人一人が自分の将来と向き合う良い機会となったようです。

次回夏の開催で五〇回目を迎える「一日看護体験」、看護を目指す学生にとってますます魅力的な企画になるよう、職員一同取り組んでいきたいと思えます。

看護体験報告

一番嬉しいのは「ありがとう」の一言や患者さんの笑顔

川崎協同病院の各部署でもこの4月に新入職員を迎え、気持ちも新たに今年度をスタートしました。新人の初々しさに目を細める人もいるかもしれませんが、どのように教育していこうか頭を悩ます人もいるかもしれません。私はというと、いつもこの時期になると、自分が入職したときはどうだったかと思い巡らしているような気がします。と言っても、それほどベテランというわけではなく、まだまだ新人に毛が生えた程度でしょうが、いつまでもそんな意識ではいられません。1人前の職員として仕事をしたいかなければと、気を引き締めているところです。

最近医師不足（一般的に地域・診療科偏在と見られている）などが大きく取りざたされ、医療や介護などの社会保障の分野に暗さが目立ちますが、今年行われる総選挙で明るい展望を希望したいものです。そして私たちの職場でも、新しく入った職員と共に一所懸命に良い医療を行っていければと思います。

今後川崎協同病院をより知っていただける広報誌を目指し、内容の充実を図ってまいりますのでどうぞよろしくお願いたします。

医師事務室 医学生担当
会田 佳成

編集後記